

ミライをつくるの

ダイセル!



DAICEL TODAY

株主の皆様へ

第152期 中間報告書

2017年4月1日～2017年9月30日



平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。
ダイセルグループの第152期(2018年度3月期)中間期の事業の概況につきまして、ご報告申し上げます。

2017年12月

代表取締役社長 **札場 操**

安全と品質の確保を 大前提に、 新規事業の創出に 全力で取り組みます

7月18日に、当社大竹工場(広島県大竹市)の過酢酸製造プラントで発生した火災事故につきまして、株主の皆様にご心配をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。今後、これまで以上に安全への取り組みを強化し、再発防止に努めてまいります。

2018年3月期中間期の業績について

—自動車エアバッグ用インフレーターやエンジニアリングプラスチックの販売数量が増加したことや為替が円安に推移したことなどにより、増収増益となりました

当中間期の世界経済は、欧米で景気の回復が続くとともに、中国でも景気の持ち直しの動きがみられ、日本経済においても緩やかな回復基調が続きました。

このような環境の中、当社グループでは、自動車エアバッグ用インフレーターやエンジニアリングプラスチックの販売数量を伸ばすとともに、継続したコストダウンなどを行い、業績の向上と企業基盤の強化に取り組んでまいりました。

その結果、為替が前年同期より円安で推移したことも

あり、当中間期の業績は売上高2,290億円、営業利益315億円、経常利益331億円、親会社株主に帰属する四半期純利益(最終利益)196億円と、前年同期比で増収増益となりました。

● 2018年3月期第2四半期業績概要 (単位：億円)

	2017年 3月期 第2四半期	2018年 3月期 第2四半期	増減	増減率
売上高	2,098	2,290	+192	+9.2%
営業利益	306	315	+9	+2.9%
経常利益	295	331	+36	+12.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	191	196	+5	+2.7%

株主還元について

— 中間配当は期初予想通り16円。
自己株式の取得を実施中です

当社では、連結業績を反映した配当と、より強固な収益基盤を確立するための内部留保の充実を総合的に勘案した、バランスのとれた利益配分を基本方針としており、中期計画「3D-Ⅲ」では、配当性向30%を目標にしています。

当中間期の配当につきましては、期初予想通り1株当たり16円とさせていただきます。期末配当につきましても1株当たり16円を予定しておりますので、年間では前年度比2円増配の32円となる見通しです。また、8月には100億円(上限)、750万株(上限)の自己株式取得を決定し、2018年3月を期限として取得を実施中です。

2018年3月期の業績見通しについて

— 販売数量の増加による増収が見込まれるものの、原燃料価格の上昇や減価償却費などの費用増加、火災事故の影響などにより減益を予想しています

当期の通期業績につきましては、たばこフィルター用トウ、エンジニアリングプラスチック、自動車エアバッグ用インフレーターなどの販売数量が増加するものの、メタノールや石炭などの原燃料価格の上昇、能力増強や試験製造設備の投資に伴う減価償却費の増加などにより、当初から増収減益の見通しでしたが、大竹工場での火災事故の影響なども加わりましたので、期初発表予想からは、営業利益、経常利益を下方修正いたしました。

安全を第一に火災事故からの復旧を進め、過酢酸誘導体製品の製造を再開するとともに、これまで以上に、各セグメントにおける拡販努力とコストダウンの取り組みを推し進めてまいります。また、中期計画「3D-Ⅲ」で掲げている「持続的成長」のために、オープンイノベーションやコンカレントエンジニアリングなど、働き方の変革にも取り組み、既存事業の成長や新規事業の創出・育成を加速させていきます。

今後もさまざまな取り組みを通じて、さらなる安全と品質の確保・向上にまい進し、広く社会に信頼される会社を目指すとともに、事業基盤の強化に向けて総力を挙げて取り組んでまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも、より一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2017年度(第152期)中間期実績

自動車エアバッグ用インフレーターやエンジニアリングプラスチックの販売数量が増加したことや、為替が円安に推移したことなどにより、増収増益となりました

売上高
2,290億円
(前年同期比9.2%増)

営業利益
315億円
(前年同期比2.9%増)

経常利益
331億円
(前年同期比12.3%増)

親会社株主に帰属する四半期純利益
196億円
(前年同期比2.7%増)

2017年度(第152期)通期見通し

売上高
4,620億円
(前年度比5.0%増)

営業利益
585億円
(前年度比9.0%減)

経常利益
610億円
(前年度比7.9%減)

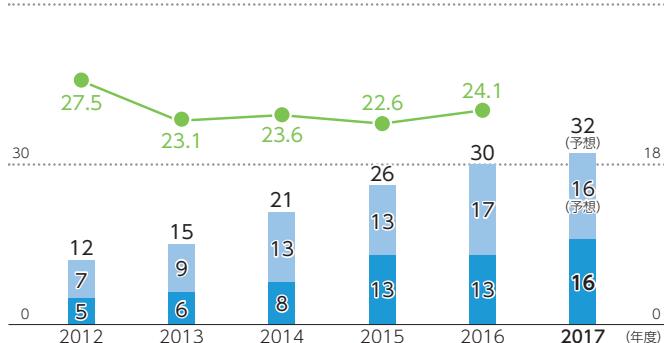
親会社株主に帰属する当期純利益
370億円
(前年度比14.3%減)

中間決算ハイライト



株主還元について

(円) 配当金 ■ 中間 ■ 期末 ● 配当性向 (%)



中期計画3D-Ⅲでの目標 ▶▶ 配当性向30%

なお、100億円、750万株を上限とした自己株式取得を決定し、買い付けを実施しています。(取得期間：2017年8月～2018年3月)

TOPICS

当社ホームページのIR情報サイトをリニューアルしました!



IR活動の詳細につきましては、当社IR情報サイトをご参照ください。

<https://www.daicel.com/ir/>

ダイセル IR 検索

経常利益
331 億円
前年同期比
12.3% 増



親会社株主に帰属する四半期純利益
196 億円
前年同期比
2.7% 増

ROE
10.3%



セグメント別事業概況

売上高
構成比



営業利益
構成比



セルロース事業部門

主要製品

- 酢酸セルロース
- たばこフィルター用アセテート・トウ
- 水溶性高分子



有機合成事業部門

主要製品

- 酢酸および有機合成品
- 有機機能品
- 光学異性体分離カラム



事業概況

酢酸セルロースは、液晶表示向けフィルム用途が減少したものの、その他用途が増加したことなどにより、売上高は横這いとなりました。たばこフィルター用トウは、世界的な需給の緩みによる市況軟化の影響を受けたものの、主要顧客との関係強化や新規顧客開拓による販売数量の増加、為替の影響などにより、売上高は増加しました。たばこフィルター用トウが市況軟化の影響を受けたことや、減価償却費の増加などにより、営業利益は減少しました。

事業概況

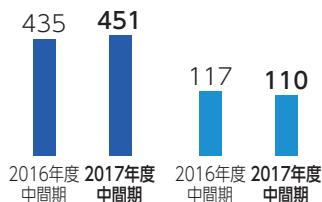
酢酸は、網干工場で定期修繕を実施したことで販売数量が減少したものの、市況の上昇などにより、売上高は増加しました。合成品は、販売数量の増加などにより、売上高は増加しました。機能品は、火災事故の影響で過酢酸誘導体の販売数量が減少したものの、電子材料分野への販売数量が増加したことなどにより、売上高は微増となりました。キラル分離事業は、カラムの販売が順調に推移したことや、インドでの新規事業が伸びたことにより、売上高は増加しました。原燃料調達価格の上昇や、研究開発費、減価償却費の増加などにより、営業利益は減少しました。

売上高

451 億円
前期比 3.7% 増



■ 売上高 (億円) ■ 営業利益 (億円)



営業利益

110 億円
前期比 5.7% 減



売上高

391 億円
前期比 7.1% 増



■ 売上高 (億円) ■ 営業利益 (億円)

営業利益

36 億円
前期比 36.4% 減



■セルローズ事業部門 ■有機合成事業部門 ■合成樹脂事業部門 ■火工品事業部門 ■その他部門

※営業利益構成比は、調整額を除いて算出してあります。

36.6%

25.4%

31.4%

30.1%

合成樹脂事業部門

主要製品

- エンジニアリングプラスチック
- 樹脂コンパウンド製品
- 合成樹脂成形加工品



事業概況

エンジニアリングプラスチック事業は、自動車部品およびスマートフォンの需要増加、ならびに新規採用が進んだことによる販売数量の増加や、為替の影響などにより、売上高は増加しました。樹脂コンパウンド事業は、販売数量の増加や原燃料価格上昇に伴う販売価格の改定、為替の影響などにより、売上高は増加しました。樹脂加工事業は、シートの販売が減少し、売上高は減少しました。

原燃料調達価格上昇の影響があったものの、販売数量の増加などにより、営業利益は増加しました。

売上高

837億円
前期比9.7%増



営業利益

121億円
前期比7.7%増



■売上高(億円) ■営業利益(億円)



火工品事業部門

主要製品

- 自動車エアバッグ用インフレーター
- 防衛関連製品



事業概況

自動車エアバッグ用インフレーター(ガス発生器)などの自動車安全部品事業は、インフレータの販売数量増加や為替の影響などにより、売上高は増加しました。防衛関連製品などの特機事業は、一部製品の防衛省による調達数量増加により、売上高は増加しました。販売数量の増加などにより、営業利益は増加しました。

売上高

581億円
前期比14.7%増

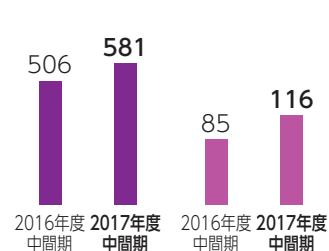


営業利益

116億円
前期比37.7%増



■売上高(億円) ■営業利益(億円)



その他部門 売上高 **30**億円(前年同期比6.1%増)

営業利益 **3**億円(前年同期比9.1%減)

誰にでも
飲みやすい薬や
サプリメントを
実現する

口腔内崩壊錠用 プレミックス添加剤

ダイセルグループでは、今期よりスタートした中期計画「3D-Ⅲ」において、メディカル・ヘルスケア領域、エレクトロニクス領域を新たなビジネスユニット候補とし、新商材の開発や、既存、新規、それぞれの商材の成長を加速させることに注力しています。本特集では、メディカル・ヘルスケア領域から、口腔内崩壊錠用プレミックス添加剤をご紹介します。

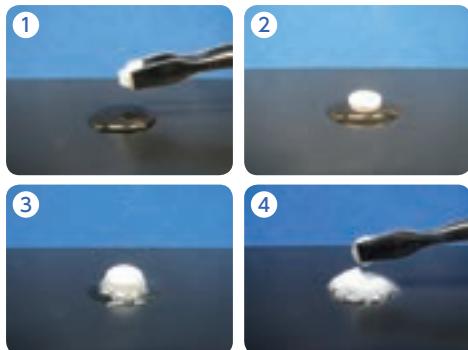
薬のいろいろなカタチ

薬のカタチのことを『^{ざいけい}剤形』と呼びますが、同じ有効成分であっても、粉薬、シロップ、錠剤など、服用する人の年齢や病状に合うように様々な剤形があります。これは、必要なタイミングで、必要な部位へ、必要な量の有効成分を届け、狙った通りの効果を発揮させるためです。また、シロップよりも錠剤やカプセル剤の方が持ち運びしやすく保存安定性が良い、などという使いやすさの面からも複数の剤形が用意されていることがあります。



薬の設計に必要な医薬品添加剤

薬をつくるには、有効成分だけではなく、医薬品添加剤が必要です。医薬品添加剤そのものには効き目はなく、有効成分の邪魔をしない安全な材料が選ばれます。具体的には「崩れたり、途中で割れたりしないように形を保つ賦形剤^{ふけいざい}」、「苦い有効成分を覆うことで味を抑えるコーティング剤」や「医薬品の品質を守る安定剤」などがあります。この医薬品添加剤と有効成分を組み合わせ、製薬会社の製剤設計担当者は薬をデザインします。



水がなくても飲める口腔内崩壊錠

近年注目され、広く普及し始めている剤形の1つが、口腔内崩壊錠 (OD錠、Orally Disintegrating Tablets) です。効果は普通の錠剤と同じですが、口の中に入れると水なしで速やかにクリーム状に変わるため、服用しやすさが格段に良く患者さんに優しい剤形です。粉薬でむせてしまったり、カプセルや錠剤を水で飲み込むのが苦手なお子さんやお年寄りをはじめ、介護でお薬を飲ませる必要がある介護者の方にも安全で便利です。薬を服用する機会が多い方にも、口腔内崩壊錠による処方喜ばれています。

口腔内崩壊錠用プレミックス添加剤 "GRANFILLER-D® (グランフィラーD®)"

口腔内崩壊錠には、輸送に耐えられる十分な硬さがありながら、口の中に入れると速やかに崩れるという正反対の特性を同時に持たせる必要があります。従来、そのためには複雑な製造工程や、専用の機械、特殊な材料を選ばなくてはなりません。この課題を解決するために、当社がニチリン化学工業株式会社と共同開発したのが口腔内崩壊錠用プレミックス添加剤 "グランフィラーD®" です。4種の医薬品添加剤を独自の方法であらかじめ組み合わせたプレミックス添加剤のため、製薬会社における口腔内崩壊錠の設計・製造が格段にしやすくなります。この特長をお客様が認めてくださり、2014年の発売開始以来、順調に採用が拡大しています。



医薬品向け

GRANFILLER-D®
(グランフィラーD®)



薬だけでなくサプリメントにも飲みやすさを

当社は、サプリメントでも飲みやすい剤形を実現したいと考え、食品や食品添加物を原料として用い、口腔内崩壊型サプリメント錠の製造のために設計したプレミックス添加剤 SWELWiCK® (スウェルウィック®) を製品化しました。2016年より販売し、お客様によるご採用が増え始めています。

服用しやすい口腔内崩壊型サプリメント錠が普及することによって、機能性成分の確実な摂取が容易になったり、健康の維持・管理がより手軽にできるようになることを願っています。

機能性食品向け

SWELWiCK®
(スウェルウィック®)



—— 今後も、これまで培ってきた知見と最新技術を駆使し、お客様へ新たな価値を提供し続けてまいります。

DAICEL TOPICS

オープンイノベーション

新事業創出の加速を実現



イノベーション・パーク内のiCube、異人館のロケーション

「世界に誇れる『ベストソリューション』実現企業グループ」になることを目指すとした長期ビジョン「Grand Vision2020」の達成に向け、新規事業創出や新製品、新技術のための研究開発・量産化検討をさらに加速させています。

4月より業務を開始したイノベーション・パーク (iPark、兵庫県姫路市) のコンセプトの一つは、オープンイノベーション。iParkの中核をなす新棟「アイ・キューブ (iCube)」には、社外のリソース活用による積極的な協業を目的に、国内をはじめ海外のお客様とも共同で研究開発ができる実験室などのオープンラボ設備を設置しています。

iCube





変化する社会ニーズに迅速に対応するために、他社と共同で様々な取り組みを積極的に進めており、スマートフォンのカメラやフラッシュなどに使用される「ウエハレベルレンズ*1」や「口腔内崩壊錠 (OD錠) *2」の製造に用いる高性能な添加剤をはじめとする新しい製品や技術がこのiCubeから生み出されています。

※1 ウエハレベルレンズ:耐熱、薄型、小型、超微細形状などの特徴を持つレンズ。

※2 口腔内崩壊錠(OD錠):口の中に入れると水なしで速やかにクリーム状に変わり、薬の効果は普通の錠剤と変わらず、服用しやすさが格段に向上した剤形。▶[詳細は7ページ「特集」へ](#)

また、8月には、新規材料開発において計算化学やシミュレーション分野で多くの研究手法を持つ兵庫県立大学と包括連携協定を結び、これまでに共同で取り組んできた開発を一層加速させるとともに、当社社員が同大学の講座で講師を務めたり、博士課程の学生をインターンシップ制度で受け入れたりするなどの人材交流も活発化させています。他にも、健康寿命の延長や認知症などの健康科学関連の課題解決に取り組む合同会社ウェルネスオープンリビングラボ(WOLL)に参加しており、WOLLや他の参加企業との連携を強化しながら、人々の健康寿命の延長に貢献するソリューションの開発、提供に向けて取り組みます。

開発初期の企画段階から外部の知恵を内部に取り込むオープンイノベーションによって、協創を進めながら好循環を生み出すことで商業化のスピードを早めています。



CSR

第11回日本化学工業協会 「レスポンシブル・ケア大賞」を受賞

当社の網干工場が、一般社団法人日本化学工業協会のレスポンシブル・ケア(RC)表彰において「RC大賞」を受賞しました。

RC表彰とは、一般社団法人日本化学工業協会がRC活動意欲の向上、奨励を図るために、RC活動に優れた功績や貢献が認められた事業所、部門、グループ等を表彰するもので、大賞、審査員特別賞、優秀賞が設けられています。

「仕上りを品質として捉えた定期修理活動」というテーマで、工事リスクアセスメントや工事リハーサル、工事安全ルールの教育徹底、フランジ締付技量認定等に取り組み、定期修理における工事トラブルを大幅に削減したことが評価されました。これからも、工事の安全と品質の確保に努めてまいります。



「いのちの森づくり」 植樹祭を新井工場で開催

「モノづくり」の会社として存続し成長していくための人づくりや社会と調和した工場づくりを目指し、従業員をはじめ、その家族、協力会社の皆様、近隣の皆様と一緒に「いのちの森づくり」に取り組んでいます。「いのちの森づくり」のキックオフとなった2016年の播磨工場での植樹祭に続いて、9月30日に新潟県の新井工場で植樹祭を開催しました。

新井工場の従業員のほか、地域住民の方々、また自動車安全部品事業に携わる海外各拠点の従業員など約350名が参加し、30種類、約1,200本の苗を植えました。今後も当社グループの各拠点で、「いのちの森づくり」に取り組んでまいります。



CSR活動の詳細につきましては、当社CSR情報サイトをご参照ください。

<https://www.daicel.com/csr/>

より詳細なデータにつきましては、当社IR情報サイトをご参照願います。

<https://www.daicel.com/ir/irlibrary.html>

		2015年度		2016年度		2017年度
		第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期
売上高	(億円)	2,265	4,499	2,098	4,401	2,290
営業利益	(億円)	316	643	306	643	315
営業利益率	(%)	14.0	14.3	14.6	14.6	13.8
経常利益	(億円)	327	654	295	662	331
親会社株主に帰属する (四半期)当期純利益	(億円)	213	403	191	432	196
総資本純利益率(ROA)	(%)	7.6	7.2	6.9	7.4	6.3
自己資本純利益率(ROE)	(%)	13.0	12.2	11.3	12.2	10.3
自己資本比率	(%)	58.9	60.2	62.1	61.6	59.7
総資産	(億円)	5,653	5,602	5,419	5,997	6,500
純資産	(億円)	3,629	3,687	3,623	3,994	4,155
1株当たり(四半期)当期純利益	(円)	60.76	115.02	54.91	124.61	56.56
1株当たり純資産額	(円)	946.95	966.36	971.57	1,067.63	1,122.60
1株当たり配当金	(円)	13	26	13	30	16
配当性向	(%)	—	22.6	—	24.1	—

用語解説

■総資本純利益率(ROA: Return On Asset)

純利益を、総資本で割ったものであり、会社が調達したお金(自己資本+他人資本)を使ってどのくらい利益を出したかを表す。

親会社株主に帰属する
当期純利益
——
総資本

■自己資本純利益率(ROE: Return On Equity)

純利益を、自己資本で割ったものであり、株主から拠出された資金を活用して、どのくらい利益を出したかを示している。

親会社株主に帰属する
当期純利益
——
自己資本

会社概要 (2017年9月30日現在)

商号 株式会社ダイセル
 英文商号 Daicel Corporation
 大阪本社 〒530-0011 大阪市北区大深町3-1
 (グランフロント大阪 タワーB)
 Tel. 06-7639-7171
 東京本社 〒108-8230 東京都港区港南2-18-1
 (JR品川イーストビル)
 Tel. 03-6711-8111
 設立 1919年9月8日
 資本金 362億7,544万89円
 従業員数 連結:11,983名 単独:2,343名
 役員

取締役

代表取締役社長 札幌 操*
 代表取締役 福田 眞澄*
 取締役 小河 義美*
 取締役 西村 久雄*
 社外取締役 岡田 明重
 社外取締役 近藤 忠夫
 社外取締役 下崎千代子
 社外取締役 野木森雅郁

*執行役員兼務者

監査役

常勤監査役 井口 友二
 常勤監査役 榊田 宏安
 社外監査役 岡本 啓衛
 社外監査役 高野 利雄
 社外監査役 市田 龍

執行役員

社長執行役員 札幌 操
 専務執行役員 福田 眞澄
 専務執行役員 小河 義美
 常務執行役員 西村 久雄
 常務執行役員 安藤 隆彦
 常務執行役員 Dieter Heckmann
 常務執行役員 児島 秀景
 常務執行役員 上野 貴史
 常務執行役員 今中 久典
 常務執行役員 杉本幸太郎
 執行役員 榊 康裕
 執行役員 白子 直秀
 執行役員 野中 哲昌
 執行役員 阪本 聡
 執行役員 吉野 幸男
 執行役員 辻 康雄
 執行役員 高部 昭久
 執行役員 八木 幹夫
 執行役員 川口 尚孝
 執行役員 藤田 眞司
 執行役員 丸山 浩一
 執行役員 林 仁志
 執行役員 高橋 郁夫
 執行役員 藤尾 正昭
 執行役員 飯山 尚志

株式情報 (2017年9月30日現在)

株式の状況

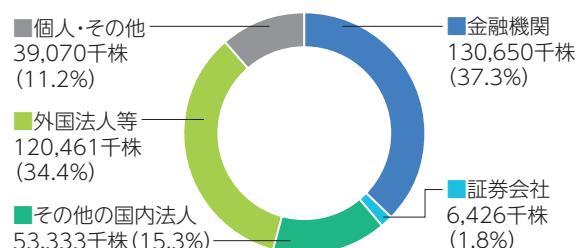
発行可能株式総数 1,450,000,000株
 発行済株式の総数 349,942,682株
 株主数 17,359名

大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	23,270	6.72
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	17,713	5.12
日本生命保険相互会社	17,402	5.03
富士フィルムホールディングス株式会社	17,271	4.99
トヨタ自動車株式会社	15,000	4.33
株式会社三井住友銀行	7,096	2.05
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	7,069	2.04
全国共済農業協同組合連合会	6,959	2.01
株式会社三菱東京UFJ銀行	6,503	1.88
ダイセル持株会	5,498	1.58

(注) 出資比率は、自己株式を控除して算出し、小数第3位以下を切り捨てて表示しております。

所有者別株式分布状況



(注) 自己株式は、「個人・その他」に含まれております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日より翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒540-8639 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031(フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
単元株式数	100株
上場証券取引所	東京
公告方法	電子公告 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。なお、電子公告は当社のホームページに掲載して行います。

お知らせ

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
なお、証券会社に口座がない株主様(特別口座をご利用の株主様)は、特別口座の管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

株式に関する「マイナンバー制度」のご案内

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続きで必要となります。お届出がお済みでない株主様は、お取引の証券会社等の口座管理機関へお届出ください。

株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、支払調書には株主様のマイナンバーを記載し、税務署へ提出いたします。

主な支払調書

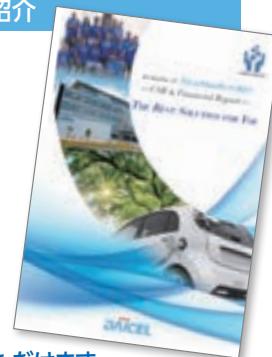
- 配当金に関する支払調書
- 単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

マイナンバーのお届出に関するお問い合わせ先

- ▶ 証券口座にて株式を管理されている株主様
お取引の証券会社までお問い合わせください。
- ▶ 証券会社とのお取引がない株主様
下記までお問い合わせください。
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)

アニュアルレポートのご紹介

「ダイセルグループ アニュアルレポート2017 ~CSR & Financial Report~」を発行しました。
2017年版より、従来のCSR報告書に財務情報を追加し、リニューアルしました。



当社ホームページでご覧いただけます。

<https://www.daicel.com/csr/library.html>

株主様向け 施設見学会の ご報告

株主の皆様にご報告です。当社グループの企業理念や事業内容について理解を深めていただくために、9月8日、イノベーションパーク (iPark、兵庫県姫路市) の見学会を開催しました。

iParkは、新しい執務棟「アイ・キューブ (iCube)」が中核となり、研究開発、生産技術、エンジニアリング、環境・安全などの技術スタッフが同じ執務室で仕事するとともに、社外のパートナーと協業できるオープンラボを備えています。



社長よりご挨拶

iParkはいろいろな人が集まって、新しいものを生み出そうとしている場です。社員は考えに考えているいろいろな工夫をしています。

サンフランシスコ万博に出展され100年の時を経て当社に寄贈された「セルロイド人形」や電子材料の新規開発品の展示コーナーをご覧いただきました。その後、スマートフォンの虹彩認証用や撮影用などにも使われる特殊なレンズや水なしでも服用できる口腔内崩壊 (OD) 錠の研究設備、多様なコミュニケーションを可能にする大執務室をご見学いただきました。OD錠のサンプルを実際にお試しいただいた際には、更なる開発への期待の声をいただきました。



質疑応答の時間では、中期計画や事業内容、社内での働き方などに関する様々なご質問とともに、継続的な見学会の開催のご要望も頂戴しました。今後も、株主様との貴重な対話の機会として今回のような株主様向け見学会を実施してまいります。

見学会には、抽選に当選された29名の株主様にご参加いただきました。5階の見晴らしのいいカフェテリアでランチメニューからお好きなものをお召し上がりいただき、普段の昼食の雰囲気を感じていただきました。その後、見学会の開始にあたって、社長の礼場がご挨拶申し上げ、続いてiPark所長の高橋が当社の事業概要やiParkの設備についてご説明いたしました。



ご参加された株主様のご感想 (一部) を紹介します

古風なイメージがあったが、時代の先端を行ってられる。

何の会社か良くわからず参加しましたが、意外に身近な会社と知り応援したくなりました。

親身、アットホームなイメージを持ちました。

真面目に楽しく仕事に取り組んでおられる。

参加して一段と親しみがもてました。